

通信システム、送信装置、受信装置、送信方法、受信方法、ならびに、プログラム

5 技術分野

本発明は、異種偏波アンテナを用いて効率良く通信を行う通信システム、送信装置、受信装置、送信方法、受信方法、ならびに、これらをコンピュータ上にて実現するためのプログラムに関する。

10

背景技術

無線通信においては、高データレートの要望が高まっている。このような要望に応える技術として、S T B C (Space Time Block Code ; 時空間ブロック符号)、O F D M (Orthogonal Frequency Division Multiplexing ; 直交周波数分割多重)、偏波ダイバーシティ (Polarization Diversity)、などの技術が、以下のような文献において提案されている。

[非特許文献 1] A. V. Zelst, R. V. Nee and G. Awater, Space Division Multiplexing (SDM) for OFDM Systems, Proc.of VTC, pp.15-18, 2000 年

20 [非特許文献 2] J.J.A.Lempianen, J.K.Laiho-Steffens, A.Wacker, Experimental results of cross polarization discrimination and signal correction values for a polarization diversity scheme, Proc of VTC97, vol.3, pp.1498-1502, 1997 年

[非特許文献 3] E.Shin and S.Safavi, A simple theoretical model for polarization diversity reception in wireless mobile environments, proc.of ISAP99, vol.2, pp.1332-1335, 1999 年

25 [非特許文献 4] 安 昌俊、笠瀬 巍、Convolutional Coded Coheretn and Differnetial Unitary Space-Time Modulated OFDM with Bit Interleaving for Multiple Anntenas system、信学技報、TECHNICAL REPORT OF IEICE、SST2002-47、75 頁～80 頁、2002 年 10 月

[非特許文献 5] S.M. Alamouti, A simple transmit diversity scheme for wireless communication, IEEE Journal of Sel. Communication, Vol. 19, No. 1, pp.48-60, 2001年1月

[非特許文献 6] M.Rupp, C.F. Meeklenbrauker, On extended Alamouti Schemes for Space-Time Coding, Proc. of WPMC 2002, Vol. 1, pp.115-118, 2002年10月

5

非特許文献 1 には、O F DM技術に関する発明が開示されている。特に、受信側と送信側の両側で複数のアンテナを用いることにより複数入力複数出力チャンネル（MIMO； Multiple Input Multiple Output）上で高い伝送レートを実現できることが示されている。

しかしながら、さらに高速度、高品質の通信を実現できるような種々の技術が求められ 10 ている。

さらに、非特許文献 2 には、偏波ダイバーシティ技術が開示されている。そして、水平偏波アンテナと垂直偏波アンテナとを組み合わせた場合における X P D (CROSS Polarization discrimination) 値が、環境によって 5 dB ~ 15 dB の間で変化することが判明している。

15 これは、直交ダイバーシティ分枝 (orthogonal diversity branch) における受信パワーの比を計測したものである。そして、偏波分枝のそれぞれが同じ受信パワーとなった場合に最大ダイバーシティ利得を達成される。

しかし、受信パワーの不均衡が大きくなると、ダイバーシティ利得を達成しなくなる。これは、ダイバーシティを結合する段階で、弱いチャンネルが無視されてしまうことによ 20 る。

そして、非特許文献 3 には、偏波ダイバーシティ技術において、送信側で 2 つの異種極性アンテナを用い、受信側で 2 つの異種極性アンテナを用い、送信側のアンテナの一方に対する受信側のアンテナの一方の傾きが送信側のアンテナの他方に対する受信側のアンテナの他方の傾きに等しい場合の理論的なモデルが開示されている。

25 また、非特許文献 4 は、本出願に係る発明者の 1 人が参加してなされた過去の研究の論文であり、ユニタリ行列により空間一時間的な変復調を行い、複数のアンテナを用いて、時間差を設けて信号を発する発明が開示されている。

さらに、非特許文献 5、6 には、S T B C 技術で広く用いられている Alamouti 符号を用いた符号化、復号化の技術が開示されている。

本発明は、以上のような公知のシステムの種々の問題点を解決するためになされたもので、異種偏波アンテナを用いて効率良く通信を行う通信システム、送信装置、受信装置、  
5 送信方法、受信方法、ならびに、これらをコンピュータ上にて実現するためのプログラムを提供することを目的とする。

### 発明の開示

10 以上の目的を達成するため、本発明の原理にしたがって、以下の発明を開示する。

本発明の第 1 の観点に係る通信システムは、送信装置と、受信装置と、を備え、以下のように構成する。

すなわち、送信装置は、変調部と、時空間符号化部と、第 1 送出部と、第 2 送出部と、を備える。

15 また、第 1 送出部と、第 2 送出部と、は、それぞれ、直並列変換部と、逆フーリエ変換部と、送信部と、を備える。

ここで、変調部は、伝送すべきデータを変調する。

一方、時空間符号化部は、変調された結果の信号を時空間符号化して、2 つの信号を得る。

20 さらに、第 1 送出部は、時空間符号化された 2 つの信号の一方を受け付ける。

そして、第 2 送出部は、時空間符号化された 2 つの信号の他方を受け付ける。

一方、直並列変換部は、受け付けた信号を直並列変換する。

さらに、逆フーリエ変換部は、直並列変換された結果の信号群を逆フーリエ変換する。

そして、送信部は、逆フーリエ変換された信号を所定の偏波極性を有するアンテナにより  
25 送信する。

一方、第 1 送出部が用いるアンテナ（以下「第 1 送信アンテナ」という。）の偏波極性と、第 2 送出部が用いるアンテナ（以下「第 2 送信アンテナ」という。）の偏波極性と、

は、直交する。

また、受信装置は、第1受入部と、第2受入部と、時空間復号化部と、復調部と、を備える。

そして、第1受入部と、第2受入部とは、それぞれ、フーリエ変換部と、並直列変換部と、を備える。

ここで、第1受入部は、送信装置から送信された信号を受信して、これを処理する。

一方、第2受入部は、送信装置から送信された信号を受信して、これを処理する。

さらに、時空間復号化部は、第1受入部により処理された結果の信号と、第2受入部により処理された結果の信号と、を、時空間復号化して1つの信号を得る。

10 そして、復調部は、時空間復号化された1つの信号を復調して伝送されたデータを得る。

一方、受信部は、送信装置から送信された信号を所定の偏波極性を有するアンテナにより受信する。

さらに、フーリエ変換部は、受信された結果の信号をフーリエ変換する。

そして、並直列変換部は、フーリエ変換された信号群を並直列変換して、得られる信号  
15 を処理の結果とする。

一方、第1受入部が用いるアンテナ（以下「第1受信アンテナ」という。）の偏波極性と、第2受入部が用いるアンテナ（以下「第2受信アンテナ」という。）の偏波極性とは、直交する。

さらに、第1受信アンテナの第1送信アンテナに対する傾きは、第2受信アンテナの第  
20 2送信アンテナに対する傾きに略等しい。

また、本発明の通信システムにおいて、第1受信アンテナの第2送信アンテナに対する傾きは、第2受信アンテナの第1送信アンテナに対する傾きに略等しいように構成することができる。

本発明のその他の観点に係る送信装置は、上記の通信システムにおける送信装置である。

25 本発明のその他の観点に係る受信装置は、上記の通信システムにおける受信装置である。

本発明のその他の観点に係る送信方法は、変調工程と、時空間符号化工程と、第1送出工程と、第2送出工程と、を備える。

また、第1送出工程と、第2送出工程とは、それぞれ、直並列変換工程と、逆フーリエ変換工程と、送信工程と、を備える。

ここで、変調工程では、伝送すべきデータを変調する。

一方、時空間符号化工程では、変調された結果の信号を時空間符号化して、2つの信号を得る。

さらに、第1送出工程では、時空間符号化された2つの信号の一方を受け付ける。

そして、第2送出工程では、時空間符号化された2つの信号の他方を受け付ける。

一方、直並列変換工程では、受け付けた信号を直並列変換する。

さらに、逆フーリエ変換工程では、直並列変換された結果の信号群を逆フーリエ変換する。

そして、送信工程では、逆フーリエ変換された信号を所定の偏波極性を有するアンテナにより送信する。

一方、第1送出工程にて用いるアンテナ（以下「第1送信アンテナ」という。）の偏波極性と、第2送出工程にて用いるアンテナ（以下「第2送信アンテナ」という。）の偏波極性とは、直交する。

また、本発明の送信方法は、偏波極性の直交する2つのアンテナ（以下、一方を「第1受信アンテナ」といい、他方を「第2受信アンテナ」という。）を用いて受信する受信装置へ送信し、第1受信アンテナの第1送信アンテナに対する傾きは、第2受信アンテナの第2送信アンテナに対する傾きに略等しいように構成することができる。

さらに、本発明の送信方法において、第1受信アンテナの第2送信アンテナに対する傾きは、第2受信アンテナの第1送信アンテナに対する傾きに略等しいように構成することができる。

本発明のその他の観点に係る受信方法は、第1受入工程と、第2受入工程と、時空間復号化工程と、復調工程と、を備える。

また、第1受入工程と、第2受入工程とは、受信工程と、フーリエ変換工程と、並直列変換工程と、を備える。

ここで、第1受入工程では、送信装置から送信された信号を受信して、これを処理する。

一方、第2受入工程では、送信装置から送信された信号を受信して、これを処理する。

さらに、時空間復号化工程では、第1受入工程にて処理された結果の信号と、第2受入工程にて処理された結果の信号と、を、時空間復号化して1つの信号を得る。

そして、復調工程では、時空間復号化された1つの信号を復調して伝送されたデータを得る。

一方、受信工程では、送信装置から送信された信号を所定の偏波極性を有するアンテナにより受信する。

さらに、フーリエ変換工程では、受信された結果の信号をフーリエ変換する。

そして、並直列変換工程では、フーリエ変換された信号群を並直列変換して、得られる  
10 信号を処理の結果とする。

一方、第1受入部が用いるアンテナ（以下「第1受信アンテナ」という。）の偏波極性と、第2受入部が用いるアンテナ（以下「第2受信アンテナ」という。）の偏波極性とは、直交する。

また、本発明の受信方法は、偏波極性の直交する2つのアンテナ（以下、一方を「第1  
15 送信アンテナ」といい、他方を「第2送信アンテナ」という。）を用いて送信する送信装置から受信し、第1受信アンテナの第1送信アンテナに対する傾きは、第2受信アンテナの第2送信アンテナに対する傾きに略等しいように構成することができる。

また、本発明の受信方法において、第1受信アンテナの第2送信アンテナに対する傾きは、第2受信アンテナの第1送信アンテナに対する傾きに略等しいように構成する  
20 ことができる。

本発明の他の観点に係るプログラムは、コンピュータを、上記の送信装置の各部として機能させるように構成する。

本発明の他の観点に係るプログラムは、コンピュータを、上記の受信装置の各部として機能させるように構成する。

25 本発明のプログラムを、他の機器と通信可能なコンピュータに実行させることにより、本発明の送信装置、受信装置、送信方法、ならびに、受信方法を実現することができる。

また、当該コンピュータとは独立して、本発明のプログラムを記録した情報記録媒体を

配布、販売することができる。また、本発明のプログラムを、インターネット等のコンピュータ通信網を介して伝送し、配布、販売することができる。

特に、当該コンピュータがD S P (Digital Signal Processor) やF P G A (Field Programmable Gate Array) などのプログラム可能な電子回路を有する場合には、本発明の情報記録媒体に記録されたプログラムを当該コンピュータに伝送し、当該コンピュータ内のD S PやF P G Aにこれを実行させて、本発明の送信装置や受信装置を実現するソフトウェアラジオ形式の手法を利用することができる。

#### 図面の簡単な説明

10

図1は、本発明の実施形態に係る通信装置の概要構成を示す模式図である。

図2は、S T B C符号化の様子を示す説明図である。

図3は、送信装置の概要構成を示す模式図である。

図4は、受信装置の概要構成を示す模式図である。

15 図5は、計算機シミュレーションによる実験結果を示すグラフである。

#### 発明を実施するための最良の形態

以下では、本発明を実施するための最良の実施形態について説明するが、当該実施形態

20 は説明のための例示であり、本発明の原理にしたがった他の実施形態もまた、本発明の範囲に含まれる。

図1は、本発明の実施形態の一つに係る通信システムの概要構成を示す模式図である。

以下、本図を参照して説明する。

通信システム101の送信装置131は、伝送すべきデータの入力を受け付けて、第1  
25 送信アンテナ141と、第2送信アンテナ142と、から信号を送信する。第1送信アンテナ141と、第2送信アンテナ142とは、その極性が互いに直交するような異種偏波アンテナであって、典型的には、一方が水平アンテナ、他方が垂直アンテナである。

一方、受信装置 151 は、送信装置 131 から送信された信号を第 1 受信アンテナ 161 と、第 2 受信アンテナ 162 と、で受信して、伝送されたデータを得る。第 1 受信アンテナ 161 と、第 2 受信アンテナ 162 と、で受信して、所定の極性を有するアンテナであり、典型的には、第 1 受信アンテナ 161 と、第 2 受信アンテナ 162 との偏波極性 5 は直交する。

そして、第 1 送信アンテナ 141 に対する第 1 受信アンテナ 161 の傾きは、45 度であり、第 2 送信アンテナ 142 に対する第 2 受信アンテナ 162 の傾きも、45 度である。このように、送信側の極性と、受信側の極性と、を非平行に配置する点が、本実施形態の特徴の一つとなる。

- 10 極性偏波ダイバーシティは、2つのアンテナを同じ場所に配置でき、装置を小さくできる点で魅力的な技術である。従来の STBC/OFDM 系では、垂直極性アンテナのみを用いているが、この場合には、水平偏波極性となった信号のパワーが無駄になる。また、送信側で 2 つの異種偏波を用いるのであれば、2 つの直交する極性に信号のパワーが分散されるので、受信側でも異なる偏波極性を有するアンテナを配置することが望ましい。
- 15 一方、送信側と受信側とで、2 つのアンテナを平行に (homogeneous) 配置する技術は、従来から極性伝送ダイバーシティで用いられているが、直交する 2 つのダイバーシティ分枝 (orthogonal diversity branch) 上での受信パワーが異なる。そして、受信パワーの不均衡が大きくなると、ダイバーシティの結合の際に、弱いチャンネルの寄与が無視されてしまう。
- 20 したがって、本実施形態では、送信側の 2 つのアンテナと、受信側の 2 つのアンテナと、が、ねじれの関係となるように (heterogenous) 配置し、受信側の 2 つのアンテナのそれぞれが受信する受信パワーをできるだけ同じようにするのである。このようなアンテナ配置については、非特許文献 3 に開示されている技術を適用することができる。

図 2 は、本発明において用いられる STBC 符号化の概要構成を示す説明図である。

- 25 STBC 符号器 201 には、シンボル S1, S2 が順に入力される。各シンボルは、QPSK 符号化されているため、一般には複素数である。
- すると、STBC 符号器 201 は、2 つの出力 Tx1 と Tx2 に、それぞれ、

Tx1 … S1, S2 ;

Tx1 … -S2, S1

なるシンボルを出力する。

送信装置では、これらのシンボルを 2 つの送出系から異なる偏波極性を有するアンテナ 5 を用いて送信するのである。

一方、受信側では、このような信号から、最も最もらしいシンボル群を復号するのである。このような S T B C 符号化の技術としては、Alamouti 符号の技術を適用することができる。

ここで、図 1 に戻る。図 1 には、本実施形態における各アンテナ同士の関係も示されて 10 いる。

すなわち、第 1 送信アンテナ 141 と第 1 受信アンテナ 161 とは、偏波極性が 45 度の傾きの関係になっており、第 2 送信アンテナ 142 と第 2 受信アンテナ 163 とは、偏波極性が 45 度の傾きの関係になっている。

また、第 1 送信アンテナ 141 と第 2 送信アンテナ 142 とは、偏波極性が直交してお 15 り、第 1 受信アンテナ 161 と第 2 受信アンテナ 162 とは、偏波極性が直交している。

ここで、第 1 送信アンテナ 141 を垂直極性アンテナ (v)、第 2 送信アンテナ 142 を水平極性アンテナ (h) とし、第 1 受信アンテナ 161 や第 2 受信アンテナ 162 との伝播係数を以下のように考える。

$H_{v,1}$  … 第 1 送信アンテナ 141 ~ 第 1 受信アンテナ 161

20  $H_{v,2}$  … 第 1 送信アンテナ 141 ~ 第 2 受信アンテナ 162

$H_{h,1}$  … 第 2 送信アンテナ 142 ~ 第 1 受信アンテナ 161

$H_{h,2}$  … 第 2 送信アンテナ 142 ~ 第 2 受信アンテナ 162

ここで、

$$A = |H_{v,1}|^2 + |H_{v,2}|^2 + |H_{h,1}|^2 + |H_{h,2}|^2$$

25 とおく。送信側から、シンボル  $S_v$  と  $S_h$  とがデータとして順に与えられたとすると、受信側において復号される信号ベクトルは、

$$(A S_v, A S_h)$$

となる。

従来の homogenous な偏波極性アンテナを用いた場合には、上記のような伝播係数ではなく、互いに平行なアンテナ同士の伝播係数のみを考慮することとなってしまう点が、本システムとの大きな違いである。

5

#### (送信装置)

図 3 は、本実施形態に係る送信装置 131 の概要構成を示す模式図である。以下、本図を参照して説明する。

送信装置 131 は、伝送すべきデータを受け付けると、これをモジュレータ 201 に渡す。モジュレータ 201 では、データを QPSK 変調し、複素数に変換する。

そして、STBC 符号器 202 では、得られた複素数の列を、2 つの符号列にする。ここでは、上述のように、Alamouti 符号化を行う。

2 つの符号列のそれぞれは、第 1 送出部 203 と、第 2 送出部 204 と、に与えられ、前者はアンテナ 141 から処理した信号を送信し、後者はアンテナ 142 から処理した信号を送信する。

ここで、第 1 送出部 203 と第 2 送出部 204 との構成はほぼ共通である。すなわち、入力を受け付けた信号と、パイロット信号とをマルチプレクサ 221 で多重化する。多重化の際には、たとえば、パイロット信号を所定シンボル数と、入力を受け付けた信号を所定シンボル数と、を 1 つのフレームにする、等の手法が考えられる。

さらに、直並列変換器 222 で複数のチャンネルに直並列変換し、逆フーリエ変換部 224 で高速逆フーリエ変換をし、ついで、G I (Guard Interval) 挿入部 225 でガードインターバルを挿入し、アンテナ 141 もしくはアンテナ 142 から、当該信号を送信する。

図 4 は、本実施形態に係る受信装置 151 の概要構成を示す模式図である。以下、本図を参照して説明する。

受信装置 151 は、送信装置 131 から送信された信号を 2 つのアンテナ 161、162 で受信する。

アンテナ 161、162 は、それぞれ、第 1 受入部 401、第 2 受入部 402 に接続さ

れており、これらの内部で処理がされるが、その処理はほぼ共通である。

すなわち、G I 削除部 301 でガードインターバルを削除し、フーリエ変換部 302 で高速フーリエ変換を行って複数の信号を得る。並直列変換部 304 が並直列変換を行い、それぞれ 1 つの信号を出力する。

5 そして、第 1 受入部 401 と、第 2 受入部 402 と、から得られる信号は、S T B C 復号器 305 に与えられ、Alamouti 符号の復号を行い、信号を出力する。

この際に、フーリエ変換部 302 において実際に得られるパイロット信号の受信後の姿と、もののパイロット信号の姿とを比較することにより、受信時にチャンネルの伝搬の様子の評価を行うことができ、上記のような伝搬係数を推測することができる。これらの評価の結果は、フーリエ変換部 302 の出力に対しても反映されるとともに、S T B C 復号器 305 における復号処理においても考慮される。これらのチャンネル評価については、種々の公知の技術を適用することができる。

最後に S T B C 復号器 305 からの出力をデモジュレータ 306 で Q P S K 復調することによって、伝送されたデータを得ることができるのである。

15 なお、これらの送信装置 131、受信装置 151 は、ソフトウェアラジオなどの技術を用いれば、各種のコンピュータ、F P G A (Field Programmable Gate Array)、D S P (Digital Signal Processor) にソフトウェアを与えることによって実現することができる。

#### (実験結果)

20 図 5 は、以下の諸元において本システムの性能を計算機シミュレーションによって調べた結果を表すグラフである。このグラフにおいて、縦軸は B E R (Bit Error Rate) を表し、横軸は E b / N o 値である。

データ変調方式 … Q P S K

データレート … 1 6 0 M シンボル / s

25 フレームサイズ … 1 2 シンボル (1 フレームにつきパイロット 2 シンボル、データ 1 0 シンボル)

フーリエ変換サイズ … 1 0 2 4

キャリア数 … 1024

ガードインターバル … 1シンボルにつき256サンプル

有効シンボルインターバル … 1シンボルにつき1024サンプル

フェーディングのモデル … 18経路レイリーフェーディング

5 ドップラ周波数 … 10Hz

XPD値 … 5dB、10dB、15dB

アンテナ … 送信側は2つの水平／垂直アンテナ、受信側は水平／垂直アンテナまたは45度傾斜アンテナ

本図においては、本実施形態に係る結果は白丸、XPD値が5dBの場合の従来のST  
10 BC/OFDMシステムは十字、XPD値が10dBの場合の従来のSTBC/OFDM  
システムは白三角、XPD値が15dBの場合の従来のSTBC/OFDMシステムは×  
印で、それぞれグラフが描かれている。

種々の計算機シミュレーションにより、従来の手法においては、XPD値によって大きく性能が左右されるのに対し、本実施形態ではあまり性能に変化がないことがわかつてい  
15 る。また、本グラフを見ればわかる通り、本実施形態のBER値は、従来の技術のいずれに対しても良好な性能を示していることがわかる。

#### 産業上の利用の可能性

20 本発明により、異種偏波アンテナを用いて効率良く通信を行う通信システム、送信装置、受信装置、送信方法、受信方法、ならびに、これらをコンピュータ上にて実現するためのプログラムを提供することができる。

13  
請求の範囲

1. 送信装置と、受信装置と、を備える通信システムであつて、
  - (a) 前記送信装置は、
    - 5 伝送すべきデータを変調する変調部と、  
前記変調された結果の信号を時空間符号化して、2つの信号を得る時空間符号化部と、  
前記時空間符号化された2つの信号の一方を受け付ける第1送出部と、  
前記時空間符号化された2つの信号の他方を受け付ける第2送出部と、  
を備え、
  - 10 前記第1送出部と、第2送出部と、は、それぞれ、  
受け付けた信号を直並列変換する直並列変換部と、  
前記直並列変換された結果の信号群を逆フーリエ変換する逆フーリエ変換部と、  
前記逆フーリエ変換された信号を所定の偏波極性を有するアンテナにより送信する送信部と、
  - 15 を備え、  
前記第1送出部が用いるアンテナ（以下「第1送信アンテナ」という。）の偏波極性と、  
前記第2送出部が用いるアンテナ（以下「第2送信アンテナ」という。）の偏波極性とは、直交し、
    - (b) 前記受信装置は、
      - 20 前記送信装置から送信された信号を受信して、これを処理する第1受入部と、  
前記送信装置から送信された信号を受信して、これを処理する第2受入部と、  
前記第1受入部により処理された結果の信号と、前記第2受入部により処理された結果の信号と、を、時空間復号化して1つの信号を得る時空間復号化部と、  
前記時空間復号化された1つの信号を復調して伝送されたデータを得る復調部と、
    - 25 を備え、  
前記第1受入部と、前記第2受入部と、は、それぞれ、  
前記送信装置から送信された信号を所定の偏波極性を有するアンテナにより受信する受

信部と、

前記受信された結果の信号をフーリエ変換するフーリエ変換部と、

前記フーリエ変換された信号群を並直列変換して、得られる信号を処理の結果とする並直列変換部と、

5 を備え、

前記第1受入部が用いるアンテナ（以下「第1受信アンテナ」という。）の偏波極性と、

前記第2受入部が用いるアンテナ（以下「第2受信アンテナ」という。）の偏波極性とは、直交し、

(c) 前記第1受信アンテナの前記第1送信アンテナに対する傾きは、前記第2受信アンテナの前記第2送信アンテナに対する傾きに略等しい  
ことを特徴とするもの。

2. 請求項1に記載の通信システムであつて、

前記第1受信アンテナの前記第2送信アンテナに対する傾きは、前記第2受信アンテナ

15 の前記第1送信アンテナに対する傾きに略等しい  
ことを特徴とするもの。

3. 請求項1または2に記載の通信システムにおける送信装置。

20 4. 請求項1または2に記載の通信システムにおける受信装置。

5. 伝送すべきデータを変調する変調工程と、

前記変調された結果の信号を時空間符号化して、2つの信号を得る時空間符号化工程と、

前記時空間符号化された2つの信号の一方を受け付ける第1送出工程と、

25 前記時空間符号化された2つの信号の他方を受け付ける第2送出工程と、  
を備え、

前記第1送出工程と、第2送出工程とは、それぞれ、

受け付けた信号を直並列変換する直並列変換工程と、

前記直並列変換された結果の信号群を逆フーリエ変換する逆フーリエ変換工程と、

前記逆フーリエ変換された信号を所定の偏波極性を有するアンテナにより送信する送信

工程と、

5 を備え、

前記第1送出工程にて用いるアンテナ（以下「第1送信アンテナ」という。）の偏波極性と、前記第2送出工程にて用いるアンテナ（以下「第2送信アンテナ」という。）の偏波極性と、は、直交する

ことを特徴とする送信方法。

10

6. 請求項5に記載の送信方法であって、

偏波極性の直交する2つのアンテナ（以下、一方を「第1受信アンテナ」といい、他方を「第2受信アンテナ」という。）を用いて受信する受信装置へ送信し、

前記第1受信アンテナの前記第1送信アンテナに対する傾きは、前記第2受信アンテナ  
15 の前記第2送信アンテナに対する傾きに略等しい

ことを特徴とする方法。

7. 請求項6に記載の送信方法であって、

前記第1受信アンテナの前記第2送信アンテナに対する傾きは、前記第2受信アンテナ  
20 の前記第1送信アンテナに対する傾きに略等しい

ことを特徴とする方法。

8. 前記送信装置から送信された信号を受信して、これを処理する第1受入工程と、

前記送信装置から送信された信号を受信して、これを処理する第2受入工程と、

25 前記第1受入工程にて処理された結果の信号と、前記第2受入工程にて処理された結果の信号と、を、時空間復号化して1つの信号を得る時空間復号化工程と、

前記時空間復号化された1つの信号を復調して伝送されたデータを得る復調工程と、

を備え、

前記第1受入工程と、前記第2受入工程とは、それぞれ、

前記送信装置から送信された信号を所定の偏波極性を有するアンテナにより受信する受信工程と、

5 前記受信された結果の信号をフーリエ変換するフーリエ変換工程と、

前記フーリエ変換された信号群を並直列変換して、得られる信号を処理の結果とする並直列変換工程と、

を備え、

前記第1受入部が用いるアンテナ（以下「第1受信アンテナ」という。）の偏波極性と、

10 前記第2受入部が用いるアンテナ（以下「第2受信アンテナ」という。）の偏波極性と、

は、直交する

ことを特徴とする受信方法。

9. 請求項8に記載の受信方法であって、

15 偏波極性の直交する2つのアンテナ（以下、一方を「第1送信アンテナ」といい、他方を「第2送信アンテナ」という。）を用いて送信する送信装置から受信し、

前記第1受信アンテナの前記第1送信アンテナに対する傾きは、前記第2受信アンテナの前記第2送信アンテナに対する傾きに略等しい

ことを特徴とする方法。

20

10. 請求項9に記載の受信方法であって、

前記第1受信アンテナの前記第2送信アンテナに対する傾きは、前記第2受信アンテナの前記第1送信アンテナに対する傾きに略等しい

ことを特徴とする方法。

25

11. コンピュータを、請求項1または2に記載の通信システムにおける送信装置として機能させることを特徴とするプログラム。

12. コンピュータを、請求項1または2に記載の通信システムにおける受信装置として機能させることを特徴とするプログラム。

18  
要約書

通信システム 101 の送信装置 131 は、伝送すべきデータを受け付け、これを STBC 符号化して 2 つの信号を得て、それぞれを OFDM 送信処理して、互いに直交する偏波極性を有するアンテナ 141、142 から無線送信し、受信装置 151 は、互いに直交する偏波極性を有するアンテナ 161、162 を用いて無線受信してそれぞれの受信信号を OFDM 受信処理して得られた 2 つの信号を STBC 復号化して伝送されたデータを得るが、アンテナ 141 とアンテナ 161 との傾きと、アンテナ 142 とアンテナ 162 との傾きとは、等しく、典型的には 45 度である。

1/5

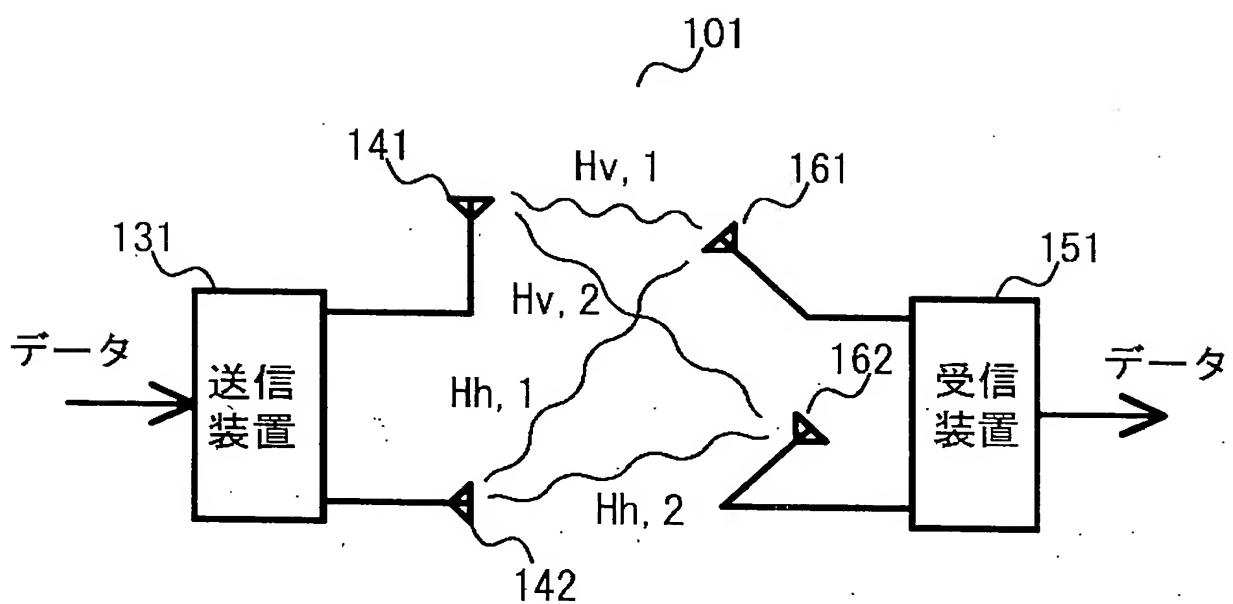


図 1

2/5

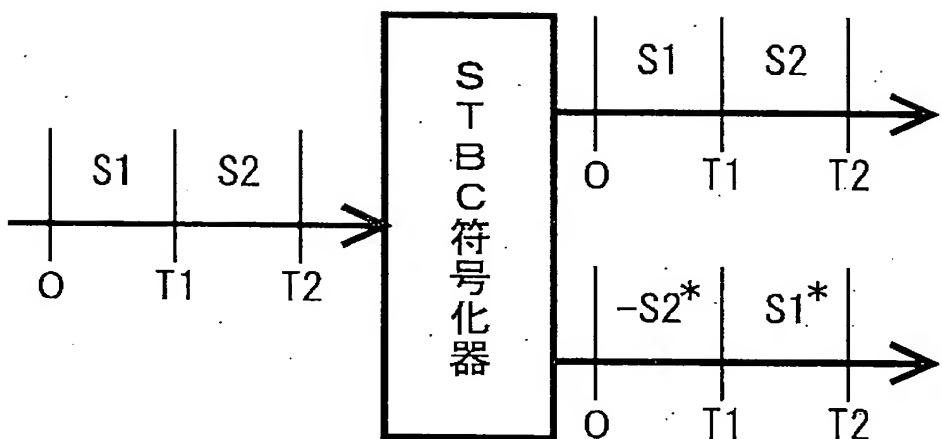


図2

3/5

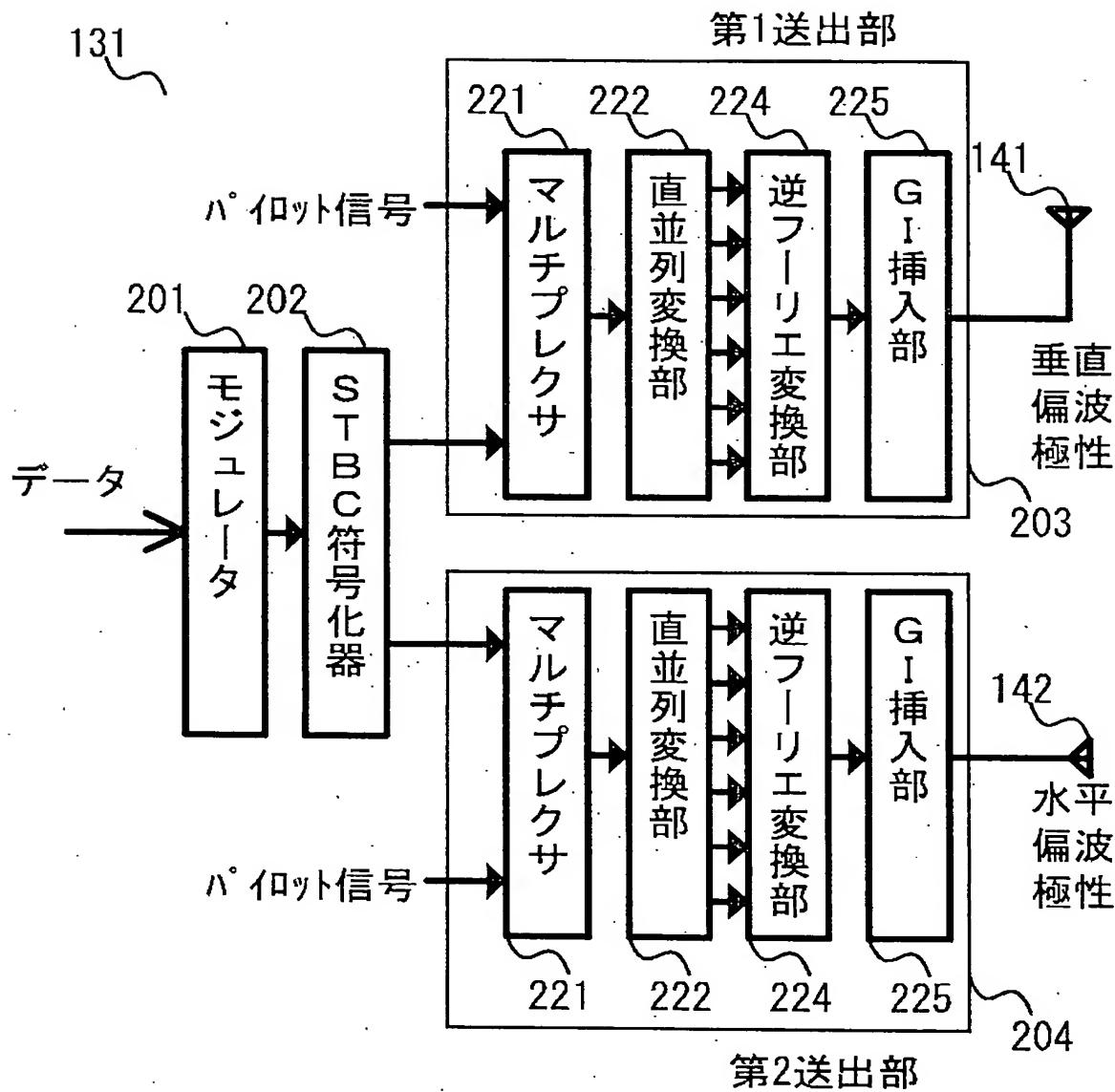


図3

4/5

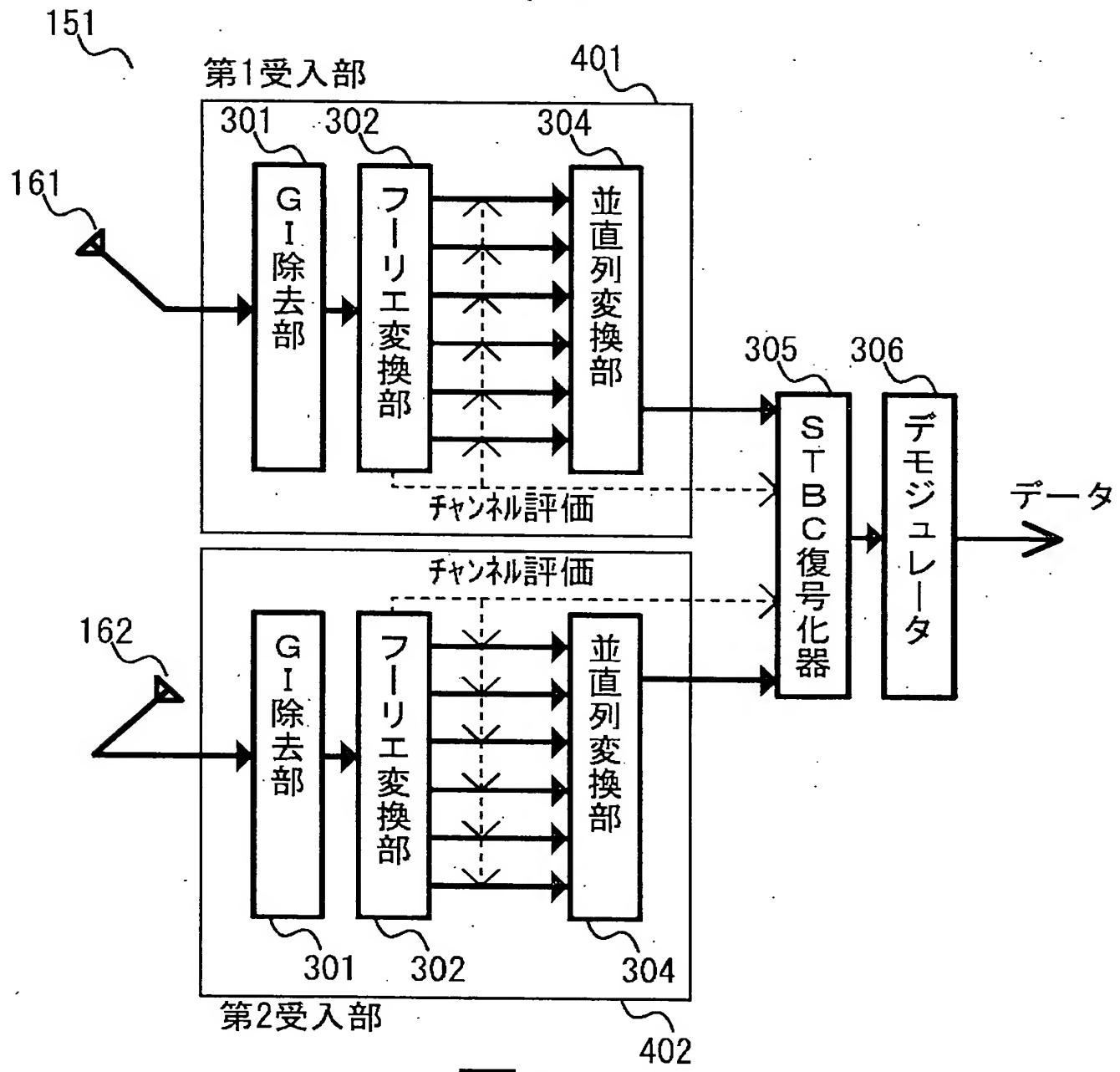


図4

5/5

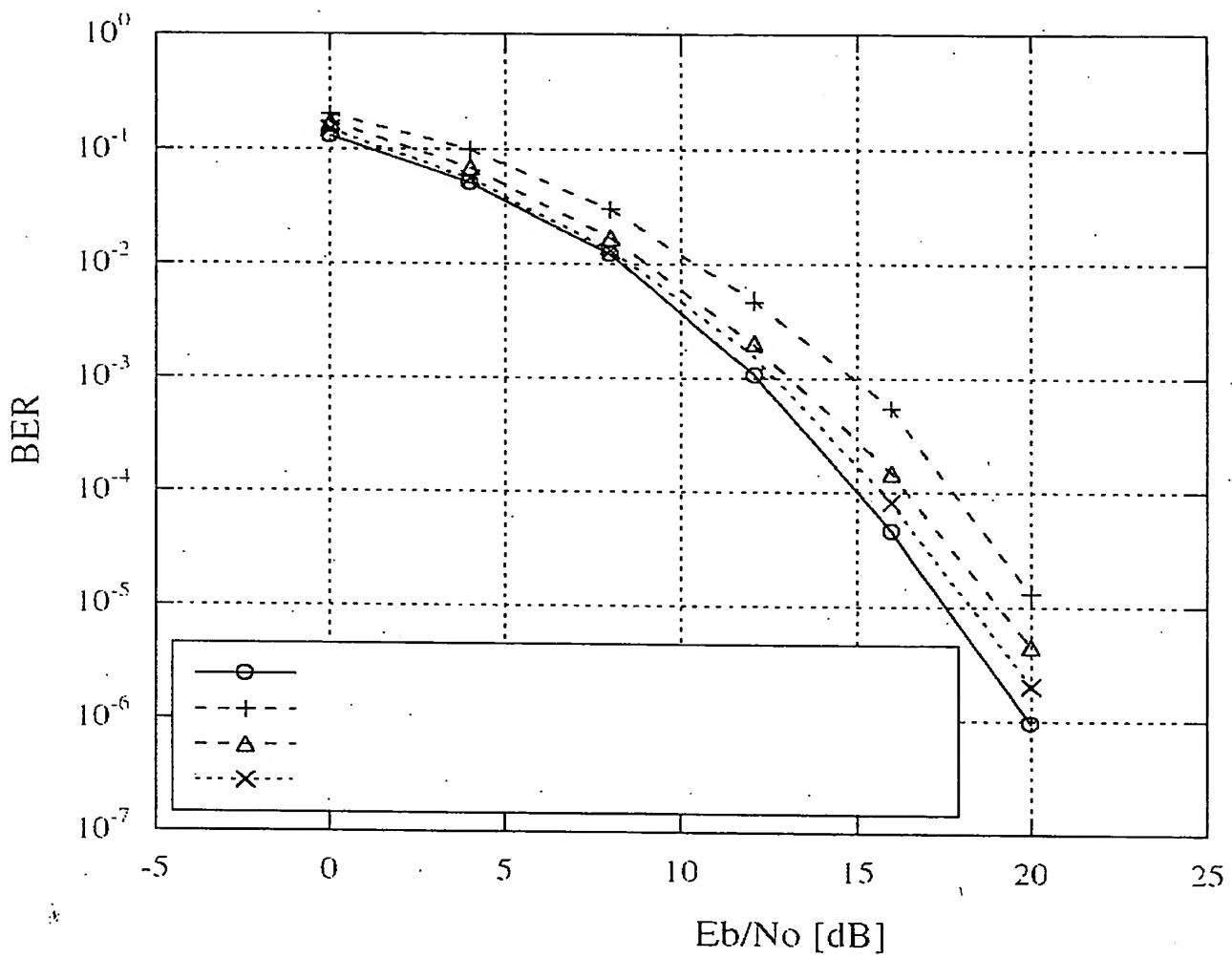


図5

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/000174

**A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER**  
Int.Cl<sup>7</sup> H04B7/10, H04J11/00, H04J15/00

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

**B. FIELDS SEARCHED**

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl<sup>7</sup> H04B7/10

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2004
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2004	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2004

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

**C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT**

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	Masatoshi YASU et al., Reverse Link Performance Improvement for Dynamic Parameter Controlled OFDM Using Alamouti Coded Heterogeneous Polarization Antennas, The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers Gijutsu Kenkyu Hokoku, 08 January, 2004 (08.01.04), Vol.103, No.552, pages 25 to 30, RCS2003-248	1-12

 Further documents are listed in the continuation of Box C. See patent family annex.

- \* Special categories of cited documents:
- "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
- "E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
- "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
- "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
- "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

- "T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
- "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
- "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
- "&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search  
06 April, 2004 (06.04.04)Date of mailing of the international search report  
20 April, 2004 (20.04.04)Name and mailing address of the ISA/  
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC))  
Int. Cl' H04B7/10, H04J11/00, H04J15/00

## B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))  
Int. Cl' H04B7/10

## 最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2004年
日本国登録実用新案公報	1994-2004年
日本国実用新案登録公報	1996-2004年

## 国際調査で使用した電子データベース(データベースの名称、調査に使用した用語)

## C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X	安昌俊 他, Reverse Link Performance Improvement for Dynamic Parameter Controlled OFDM Using Alamouti Coded Heterogeneous Polarization Antennas, 電子情報通信学会技術研究報告, 2004. 01. 08, Vol. 103, No. 552, p. 25-30, RCS2003-248	1-12

 C欄の続きにも文献が列挙されている。 パテントファミリーに関する別紙を参照。

## \* 引用文献のカテゴリー

- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
- 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
- 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献(理由を付す)
- 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

## の日の後に公表された文献

- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
- 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
- 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
- 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日 06.04.2004	国際調査報告の発送日 20.4.2004
国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官(権限のある職員) 畠中 博幸 電話番号 03-3581-1101 内線 3534

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record.**

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**